

鳥取県における治療と仕事の両立支援の取組状況

地域両立支援推進チームの会議開催

日時：平成29年 9月 1日

構成員：鳥取労働局（健康安全課、職業安定課、雇用環境・均等室）

鳥取県福祉保健部健康医療局

公益社団法人鳥取県医師会

日本労働組合総連合鳥取県連合会

独立行政法人労働者健康安全機構山陰労災病院総合支援センター

鳥取県立中央病院

一般社団法人鳥取県労働基準協会

鳥取県社会保険労務士会

公益社団法人日本医療社会福祉会

一般社団法人日本産業カウンセラー協会中国支部

特定非営利活動法人日本キャリア開発協会

独立行政法人労働者健康安全機構鳥取産業保健総合支援センター

取組状況

○鳥取労働局

http://tottori-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/news_topics/topics/_121030/_121304.html

治療を受けながら働き続けるために

治療と職業生活の両立支援について

治療と職業生活の両立支援とは

病気を抱えながらも、働く意欲・能力のある労働者が、仕事のために治療機会を逃したり、または、治療のために職業生活の継続を妨げられることのないように、適切な治療を受けながら生き生きと働き続けられる社会を目指す取り組みです。

労働者が、がんなどの病気を理由として安易に退職を決めてしまわないように、事業者側にも、日頃から病気に理解の促進や、労働者との良好なコミュニケーションが求められています。



治療と職業生活の両立支援の必要性

POINT 1 治療技術の進歩により、「不治の病」は「長く付き合う病気」に。

現在、日本人の2人に1人が、生涯のうち一度はがんになると言われています。がんと診断されてから5年後に生存している割合は過去と比べてアップしており、がんは「長く付き合う病気」になってきたと言えます。

POINT 2 今は仕事をしながら治療を続けることが可能な時代。

仕事をしながらがん治療している人は、現在推計32.5万人。がんは必ずしもすぐに離職しなければならない病気ではなくなりつつあります。今後、高齢になっても働く人の数が増えることに伴い、病気を抱えながら働く労働者の増加も見込まれています。

POINT 3 患者にとって仕事は生きがいでもあります。

がんなどの病気を抱えながら仕事を続けたい人は、92.5%もいます。その理由は、家庭の生計を維持するためや、治療代のためはもちろん、働くことが自身の生きがいでもあるためなど様々。病気を抱える労働者のためにも、治療を続けながら働ける環境を作ることが必要とされています。

治療と職業生活の両立を支援することには大きなメリットがあります

事業者のメリット

- 労働者の「健康確保」の推進
- 継続的な人材の確保
- 労働者のモチベーションの向上による人材の定着・生産性の向上
- 「健康経営」の実現
- 多様な人材の活用による組織や事業の活性化

労働者のメリット

- 治療に関する配慮が行われることによる病気の増悪の防止
- 治療を受けながらの仕事の継続
- 安心感やモチベーションの向上
- 収入を得ること
- 働くことによる社会への貢献

事業者が考慮するポイント

- 事業者による基本方針等の説明と労働者への周知
- 研修・教育等による両立支援への意識啓発
- 相談体制の確立、相談窓口の開設・周知
- 柔軟な勤務を可能とする休暇・勤務制度の検討、導入
- 休職期間中の連絡体制の整備
- 上司・同僚等へのサポート
- 職場への理解・協力の依頼

労働者が準備しておくポイント

- （担当医に対して）
- 今後の治療の意思通し
- 仕事について伝えたいこと・聞きたいこと（事業場に対して）
- 仕事をすることをあきらめていないこと、できないこと
- 仕事の内容や働き方についての希望
- 上司や産業医に伝えたいこと
- 同僚の協力や理解を得たいこと

○鳥取産業保健総合支援センター

- 事業者、人事労務担当者向けのセミナー（鳥取労働局と共催）
治療と仕事の両立支援セミナー
平成 29 年 11 月 28 日 14 : 00～16 : 00
会場：米子食品会館

○日本労働組合総連合鳥取県連合会

- リーフレットの配布

○鳥取県労働基準協会

- リーフレットの配布（機関紙にて会員事業場へ）

○鳥取県社会保険労務士会

- リーフレットの配布（講習会にて事業場へ）